

大切な水道

～ おいしいな だいじなお水 ごくごくり～

私たちの普段の生活の中では蛇口をひねると、いつでもきれいな水道水が出てきます。当たり前のように使っていますが、もし使えなくなったらどうなるのでしょうか。飲み水、トイレ、お風呂など、日常生活に大きな影響がでます。

実際に東日本大震災では多くの場所で水道が使えなくなりました。震災を教訓にして、今一度水道の大切さについて考えてみましょう。

関 市企業局水道企画課 ☎685・3330



水道が使えない場合、池や川の水は直接飲めないため、飲み水や炊事用の水を購入する必要があります。また、トイレやお風呂の利用にも影響があるため、衛生状態が悪くなり病気が流行するおそれもあります。

もしも水道が使えなくなったら

現在、日本での一人当たりの一日の水の消費量は約300リットルといわれています。水洗便所の普及など、生活様式の変化に伴い1965年から2000年までの間に消費量は約2倍に増加しましたが、近年は節水型家電製品の普及などにより減少傾向にあります。

東日本大震災がもたらした水道への影響

東日本大震災による断水戸数は約250万戸。宮城県や茨城県では総戸数の約7割以上が断水しました。被災地には全国から応援が派遣され、応急給水や応急復旧活動が行われました。本市も給水車と職員を派



被災地で飲料水を配る本市の給水車

いつ来るか分からない 非常事態に備え準備を

遭し、給水活動を行いました。震災発生から3週間で約90%が復旧したものの、余震の影響などもあり復旧完了までには半年もの期間がかかりました。避難所では、飲料水不足やトイレ・手洗いなどの生活用水不足による衛生環境の悪化などで、多くの方が不便な生活を強いられました。

本市でも、近い将来に発生が予想される南海トラフ地震により水道施設が被災し、断水する可能性があります。「徳島県南海トラフ巨大地震被害想定(第二次)」では、本市の断水

率は地震発生直後で約85%、1カ月後でも約39%とされています。災害に備え、本市では耐震性能に優れた水道管を採用するなど、さまざまな取り組みを進めています。どんなに対策を行っても、絶対に断水が起こらないようにすることは困難です。これを機に、水道の大切さを再認識していただくとともに、普段から必要最低限の水の備蓄や給水袋の準備など、ご家庭でも非常時に備えた対策をお願いします。

次

回は、広報なると9月号で「南海トラフ地震に備えた水道事業の取り組み」を紹介します。

6月1日～7日は水道週間です

水道週間とは

水道について水道利用者の理解と関心を高め、公衆衛生の向上と生活環境の改善を図るとともに、水道事業の発展を目的に毎年実施されています。

今年も、「おいしいな だいじなお水 ごくごくり」をスローガンとして、さまざまな広報活動が全国で行われています。